オピニオン

時代を生きた証となる体験を

新型コロナウイルスによる感染症発生から4年が経過しました。修学旅行の実施については元に戻ってきています。しかし、取り巻く環境は大きく変化しています。

今年元日に発生した能登半島地震により、北陸はいったん敬遠されましたが、3月16日には北陸新幹線が敦賀まで延伸し、露出が多くなり、再び注目を集めることになります。

また、ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのパレスチナ・ガザ地区侵攻などで世界情勢は緊迫の度を増しています。

その戦争の影響から、燃料の高騰に連動し、あらゆる物価が上昇しています。修学旅行に大きく関係する貸し切りバス代も、人手不足や労働条件と待遇改善で大きく値上がりしました。

旅行費用はそのままで、同じ場所と内容なら当然行けないことになります。旅行費用が据え置かれるなら、行き先や内容を見直すべき時がきています。距離ではなく、教育効果などの内容重視で実施すべきであります。

コロナ禍で失われたものと時間をどう取り戻すべきか、変化と行動が求められています。

①人と人の関係・人間関係構築能力は、体験プログラムのインストラクターや教育民泊の滞在先の家庭での交流で得られる。

②ゲームやユーチューブに費やした時間とバーチャルな感覚で失った、自然との関わりが求められている。自然体験や1次産業体験から取り戻す機会としたい。

③冷凍やインスタント食品、外食や出来合いの総菜など、つくらない・手間をかけない食が幅を利かしている。世界無形文化遺産の和食をつくれる人が絶滅危惧種となりそうである。味覚体験や教育民泊での共同調理体験で食育・漁食振興につなげたい。

④山積する地方の課題はその実態を理解できないと他人事である。いよいよ、その他人事を自分事にし、差の課題を共有し考え行動に移せることからやり始めなければならない。この学習が課題探究型であり、SDGs学習である。

これらの今求められている教育内容に取り組んでいるのが全国ほんもの体験ネットワーク会員であり、今回掲載している地域ではすでに取り組んできており、生徒や学校の評価も高い地域であります。

次代を担う青少年健全育成の観点から物見遊山、テーマパーク、社寺などから脱却して、生徒がこの時代に生きた証となる体験をしてほしいと願うばかりであります。直接または旅行会社を通じて当該地域とご相談いただければ幸いです。

全国ほんもの体験ネットワーク　会長
全国教育民泊協会　会長
体験教育企画　代表取締役　藤澤安良

北海道・標津

北方領土の平和学習と鮭に支えられた暮らしに学ぶ

【知床の自然環境・産業・食・平和学習・歴史文化】　世界自然遺産知床の南に位置する当町は、海、山、川、大平原のあらゆる資源に囲まれ、1万年の間、人々が暮らし続けている痕跡が残る唯一の地域。北は秘境、知床国立公園の山々が連なり、東の海岸から24㌔先に北方領土国後島が望め、内陸にはミルクの里の雄大な牧草地群が広がっております。1万年続く暮らしを体感する歴史文化に基づく地域ストーリーを軸に、地域の人々の暮らしに触れる教育旅行の受け入れを行っております。

【食への理解を深める】　水産業における食の安全・安心供給システム「地域ハサップ」生産活動を国内で初めてプログラム化し、学習素材として提供しています。製品検査だけでなく、原材料の生産から加工・流通に至るまでの全工程であらゆる危害の発生を分析し、その危害が起こらないように工程中の重要な管理点を監視するシステムを、当地ではイクラや新巻鮭（しゃけ）作り体験などを通し、学びを深めていただいております。

また、酪農が盛んな根釧地域では、周辺地域との連携により約20軒、生徒数約30人の酪農家民泊の受け入れから、酪農業の仕事を手伝い、労働の大変さを家族の一員として汗して学び、収穫の喜びを共有する活動を展開しています。

【平和学習　北方領土を考える】　終戦直後、旧ソ連軍が千島列島を侵攻し、北海道の間近まで島を追われた史実はあまり知られていないのが現状です。島で暮らしていた元島民の高齢化に伴い、引き揚げ当時の様子など、その真実を直接聞くチャンスが年々難しくなってきております。日本にも戦争の影が見え隠れする昨今、戦争を知らない若い世代に、戦争の恐怖や平和の大切さを講話やグループワークを通して考える体験は、日本の領土が間近に見える当地ならではの平和学習プログラムです。

【日本遺産「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～】　2020年6月、人と鮭の関わりの歴史を語る4市町（根室市、標津町、別海町、羅臼町）のストーリー「鮭の聖地」の物語は、審査委員会の承認を得て日本遺産として文化庁に認定されました。当町には、約440〇個を超える古代の竪穴住居跡の無数のくぼみが連なり、日本最大の遺跡群「標津遺跡群　伊茶仁カリカリウス遺跡」が形成されています。遺跡からはあらゆる時代の竪穴から大量の鮭の骨が出土され、この地が毎年鮭を求めて各地から人々が集まる集積地だったことが分かっており、自然との長い共生を今に伝えています。「鮭の聖地」の物語の地域ストーリーを体感するプログラムを通して、より地域への学びを深めます。

【ポストコロナを見据え、エコツーリズムからサスティナブル・ツーリズムへ】　当町では約20年間、自然、産業、歴史、平和を素材としたエコツーリズム事業を展開してきました。今後はより一層、SDGsの取り組みが求められています。

「鮭の聖地」の物語は1万年の人々の暮らしそのもの。それをひも解くことが根室海峡沿岸部のSDGsを学ぶことにつながります。「安心安全」「清潔」に加え、「自然共生・環境志向」の取り組みを深化させ、「持続可能な観光＝サスティナブル・ツーリズム」を推進していきます。

原始河川、ポー川でのカヌー体験

新巻鮭づくりを体験

北方領土の講話

地元の食材を使った昼食を提供

南知床標津町観光協会
【鮭の聖地　一万年の源流】
〒086-1653　北海道標津郡標津町南3条西1丁目1-6
TEL　0153-85-7226　FAX　0153-85-7227
URL　https://www.visitshibetsu.com/

体験交流で心の高まりを

岩手県・田野畑村

三陸復興国立公園　大震災の伝承と大自然

岩手県沿岸北部に位置する田野畑村は、人口約3千人の農山漁村です。三陸復興国立公園に指定されている海岸線には、高さ200㍍前後の断崖が約8㌔にわたり連なる北山崎、弓状にえぐられた200㍍前後の断崖が5列に連なる鵜の巣断崖などの景勝地を有しています。北山崎は、平成11年に公益財団法人日本交通公社が行った全国観光資源評価「自然資源　海岸・岬の部」で、世界に誇示できる観光資源として、最高ランクの特A級に格付けされています。

田野畑村の豊かな自然の中に築かれてきた歴史や文化、漁業、農業、酪農、林業、観光と多彩な産業と人々の営み、そして大津波の体験と復興へ進む姿は、たくましさや生きる力を育むための良き教材です。体験プログラムの指導者は訪れる子供たちとの交流を大切にし、素顔と本音で真剣に向き合います。

■組織と教育訓練　体験村・たのはたネットワークがコーディネート組織として手配のワンストップ化を図り、田野畑村役場が後方支援をする官民一体の体制を整え、学校や旅行会社の目的や要望に対し迅速、柔軟に対応しています。プログラムの指導者や民泊家庭は、定期的な研修を行い、漁船プログラムについては海上保安庁などとの連携訓練を実施し、安全確保に努めています。

■民泊（ホームステイ）　新型コロナウイルスの影響で民泊受け入れ家庭が減少してしまいましたが、受け入れ体制の再構築を進め、現在約30軒の受け入れ家庭、100人の受け入れ体制となっております。ホテル羅賀荘との交互宿泊による受け入れや、隣接の普代村、アクセスのよくなった三陸沿岸道路で30分ほどの久慈市などと連携し、大規模校の受け入れも可能です。

■宿泊ホテル　336人の収容能力を持つホテル羅賀荘は、宿を出るとすぐに体験現場というロケーション。ホテルに隣接の屋内交流センターではセレモニーや体験プログラム、ワークショップなど、多目的な活用が可能で滞在中に効率的なプログラムを組めます。

■机浜番屋群　平成18年に「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」に選ばれた机浜番屋群。東日本大震災で流失しましたが、多くの方の支援で以前の面影を復元する形で再建されました。現在は漁師の拠点施設であるとともに、塩づくりや番屋料理などの体験ができる観光拠点にもなっています。

【お奨めプログラム】

◆サッパ船アドベンチャーズ　三陸地域の観光振興をけん引するサッパ船アドベンチャーズ。漁に使う小型漁船（サッパ船）に乗り、断崖直下や岩礁の間を縫うように航行する漁師の勇姿に気迫を感じます。洋上や漁港での体験は漁業の厳しさや漁師の知恵を伝えます。

◆大津波語り部　平成23年3月11日に村を襲った大津波は、住家や施設のみならず、多くの尊い命を奪い去りました。被災地だからこそ伝えなければならない、あの日この場所で起こったこと。そして13年の歳月の中で懸命に復旧・復興を続けてきたこと。参加者は、当時を知るガイドから防災への備え、生きる力を学びます。

◆塩づくり体験　かつて三陸沿岸一帯で行われていた塩（まぢ）づくりを、昔ながらの薪を使った製法で体験できます。大量の海水から生み出される塩の量はほんのわずか。歴史を学ぶことで、いかに塩が貴重であったかを実感できます。

人気のサッパ船アドベンチャーズ

体験の拠点「机浜番屋群」

潮騒の宿「ホテル羅賀荘」

「大津波語り部」から生きる力を学ぶ

NPO法人　体験村・たのはたネットワーク
担当　楠田・赤坂
〒028-8402　岩手県下閉伊郡田野畑村北山129-10
北山崎ビジターセンター内
TEL　0194-37-1211　FAX　0194-33-3355
E-mail taiken-tanohata@car.ocn.ne.jp
URL https://www.tanohata-taiken.jp/

埼玉県・秩父地域

都心から90分、民泊家庭は150軒　東京に「ちかいなか」秩父

埼玉県の秩父地域は、東京都心から約80㌔圏内（バス・電車で2時間以内）でありながら、ユネスコに登録された「秩父祭」に代表される歴史や伝統文化、素晴らしい自然、人情にあふれた地域です。

歴史の教科書の中では、「和同開珎」「秩父事件」などが有名で、地学の面では〝日本地質学発祥の地〟として「日本ジオパーク」にも選ばれています。最近では人気アニメ「あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。」や映画「心が叫びたがっているんだ。」「空の青さを知る人よ」の舞台になったアニメの聖地でもあり、現在全国で一番歌われている卒業ソング「旅立ちの日に」の発祥の地でもあります。

また、風光明媚で豊かな自然が残り、四季を通じた観光要素も多くある地域で、老若男女問わず、人気が高まっている観光地でもあります。

■教育民泊120軒　民泊では、約120軒の登録家庭が1軒3～4人の少数単位で生徒たちを迎え、そば・うどん打ちをはじめ、地域独特の生活を感じられる田舎料理を一緒に作り、食事や畑仕事など常に一緒に行動します。民泊で生徒たちをお預かりしている間、ほんものの家族同様、家庭の一員として田舎の生活体験や親密なコミュニケーションを図ります。

■体験プログラム　学校・クラス単位で、首都圏の貴重な水資源となっている荒川を活用した川下りやラフティング、自然の中でのアドベンチャーや渓流釣り、田植え体験、日本百観音霊場である秩父札所34ケ寺で行われる座禅、竹細工、さらには、貴重な地質を生かしたジオパークや新電力を学べるSDGs体験など学校のニーズに合わせた自然、文化を体感できる豊富な体験プログラムも多数ご用意しています。

■コーディネート組織　「一般社団法人秩父地域おもてなし観光公社」は、行政とも密接に連携しており、秩父医師会と連携した新型コロナウイルス対策や秩父消防本部にも受け入れの際には事前にお知らせし、万が一の緊急時にも、地域ぐるみで対応する準備もしています。その他、学校や家庭が望むニーズにも可能な限り対応いたします。

バスでは修学旅行で人気の高い国会議事堂から約90分、東京ディズニーランドから約110分。首都高・関越道経由で花園IC下車、国道140号を利用。鉄道ではJR山手線池袋駅から西武鉄道・特急ラビュー号で西武秩父駅まで約80分。都心から一番近くて、一度に約300人まで受け入れ可能なのが秩父地域の民泊です。

東京への修学旅行に〝ちかいなか秩父〟の民泊を取り入れ、人情あふれる田舎の生活体験をしてみませんか。

自然を感じ、チームワークを育むラフティング

全員で料理して「いただきます」

みんなで田植え体験

受け入れ家庭での農作業体験

一般社団法人　秩父地域おもてなし観光公社
〒368-0032　埼玉県秩父市熊木町9-5
秩父ビジネスプラザ
TEL　0494-26-6260　FAX　0494-26-7331
E-mail:info@chichibu-omotenashi.com
URL https://www.chichibu-omotenashi.com/